

## 令和２年度第３回秋田県男女共同参画審議会要旨

### ■日 時

令和２年１１月１６日（月）１３：３０～１５：００

### ■場 所

秋田県庁議会棟 大会議室

### ■出席者

【秋田県男女共同参画審議会委員】

高橋委員、竹下委員、竹田委員、長谷部委員、松坂委員、山名委員

【事務局】

信田次世代・女性活躍支援課長、新号次世代・女性活躍支援課政策監ほか関係職員

### ■議 事

#### ●事務局（次世代・女性活躍支援課）

ただいまから、令和２年度第３回秋田県男女共同参画審議会を開催いたします。

本日の審議会委員の出席者については、別添の出席者名簿にある通りですので紹介は省略させていただきます。

また、県側の事務局出席者につきましては、大変恐縮ではございますが、出席者名簿の配付をもって紹介に代えさせていただきますので、ご了承願います。

次に会議の成立についてご報告いたします。

本日は委員１０名中６名にご出席いただいておりますので、秋田県男女共同参画推進条例第２２条第３項の規定により、会議が成立していることをご報告いたします。

それでは早速議事に移りますけれども、秋田県男女共同参画推進条例第２２条第２項の規定により、会長が審議会の議長となることとなっておりますので、ここからの進行は山名会長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

#### ○山名会長

議長を仰せつかりました山名です。どうぞよろしくお願いいたします。

今回の審議会での議論を経て、県民の皆様へパブリックコメントを実施することとなります。今日は過半数をギリギリ超えている人数なので、寂しい気もしますが、十分な議論をしていきたいと思っております。

特に前回、委員の皆様から出された意見や数値目標について、この後事務局から説明をいただく予定になっておりますけれども、それらを中心に議論していきたいと思っております。

ます。どうぞよろしくお願いいたします。ここからは座って説明させていただきます。

それでは議事に入る前にお諮りいたします。

審議会の会議は原則公開することとなっております。後日作成する会議要旨等についても、委員のお名前を含めて公表することとなりますがよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

それでは議題に入ります。

議事の第5次秋田県男女共同参画推進計画の素案について、事務局から説明をお願いいたします。

#### ●事務局（次世代・女性活躍支援課）

事務局より資料に基づき説明。

#### ○山名会長

それではただいま事務局から説明のあった、第5次秋田県男女共同参画推進計画の素案について、委員の皆様にご意見等をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

#### ○長谷部委員

素案について目を通させていただきました。私としては、これでいいのではないかと考えております。男女共同参画社会ってというのは、今思い返してみますと、平成10年頃から社会で取り上げられるようになったと思うのですが、私が現職の頃は男女共同参画が全く頭になかったのが実情です。退職して10年近くなりますが、今は男女共同参画というのが昔のように感じており、それほどかなり浸透してきたのではないかと考えています。

国では、指導的地位における女性の割合を2020年までに30%という目標を設定していましたが、最近これを10年ほど先送りしたという報道がありました。その理由として、考え方がまだ社会全体で十分共有されていない、それに向けた必要な改革や法律も整備されてはいるものの、なかなか進んでいないことを踏まえた上での判断のようです。確かにこれは国や県、市町村が言ったからすぐにできるものではなく、様々な啓発や、啓蒙活動を地道に続けていくというのが大事だと思うわけです。

そこでお尋ねしたいのが、この計画が完成した際に、どこにどういうふうに配布するのでしょうか。例えば高校、大学の図書館など一般の方々に手に取って読んでもらうというのが大事だと思います。計画を作るのが目的ではなく、その計画を推進するのが重要です。したがって、計画策定後は、どのような形で公表を予定しているのでしょうか。

さらに、この計画が欲しい、あるいは読みたいという場合は、県のホームページからダウンロードしなければならないのか、もしくは市役所に行けば入手できるのでしょうか。要するに県民に対する地道なPRや啓蒙活動に加え、誰もが簡単に計画を入手できる体制を構築することが必要だと思います。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

学生等への啓発方法ですけれども、こちらの計画は少し細かいものになりますので、学生向けには、別途ライフプランを考える副読本があり、その中に男女共同参画に関する部分もおり込んでお知らせしていきたいと考えております。

また、この計画策定後の公表については、県政記者室や報道機関の方にも情報提供いたしますし、ホームページにも掲載いたします。

周知方法については、ホームページの活用はもちろんのこと、市町村の方にも配布いたしますし、必要な方には差し上げたいと思っております。

○高橋委員

新しい計画の体系を確認させていただきましたが、全国のパパ達の間でもこうした委員を務めている方がいて、お互いに情報共有する中で、男女共同参画などの言葉の意味やあり方を見直しする時期だよねという話もありました。家庭や仕事、そして地域の中でのあり方、家族のあり方も含めて協議を重ねさせていただいた上で指標も含めて、秋田県らしいものができたのではないかなと思っております。事務局の皆さん本当にありがとうございました。

今回、指標の NO.32 から NO.34 までの「行政分野における率先した取組の推進」というところが、新たな指標ということで記載されております。やはり行政が中心となって率先して進めていくことが大事であって、国もすごく率先してやっているから実績にもあらわれてきており、それが都道府県や市町村にも波及していくと思います。やはり男性の育休取得については、行政機関の方で率先して取得していただきたいし、何のために育休を取得するのかというところもセットで進めていただくと、各家庭での家族のあり方の変化や、男女問わず全ての働く人にとって働きやすい環境づくりも繋がり、より効果的な事業になっていくと思います。

○竹田委員

前回の説明いただいていたかもしれないのですが、指標 NO.10「放課後児童クラブ待機児童数」というところが新しい指標ですけれども、第4次計画の指標の段階では、「放課後児童クラブの設置率」ということでクラブそれ自体の数を指標としていたわけですが、今回、待機児童数というふうに指標を変えた背景といいますか事情を少し教えていただければと思います。

あと指標 NO.12「積極的に育児をしている父親の割合」というのは、前回、確かお話があったと思いますが、すごく計りにくいと感じております。先程の待機児童の数っていうのは、客観的にきっちり出るものですが、この「積極的に育児をしている父親の割合」というのは、どのような基準があって、客観的にどう数値化するものなのかということを教

えていただきたいと思います。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

1点目ですけれども、第4次計画の指標であった放課後児童クラブの設置率から、第5次計画において待機児童数に変化した部分については、第4次計画の時には、設置率はそれほど高くなく、共働きの方たちが非常に増えている中で、そうしたクラブ設置のニーズに応えるところを優先しながら5年間実施してまいりました。その結果、設置率については、数値目標は達成しておりますが、まだ86%台という状況であることから、地元のニーズに応じて引き続き県の支援のもと、市町村が中心となって整備してまいります。その中で待機児童については、以前は低学年のニーズが多かったのですが、近年は高学年のニーズも非常に大きくなっている背景もあることから、両親が安心してお子さんを預けながら働ける環境づくりに向けて、待機児童数の解消ということを目標としたところです。

●事務局（保健・疾病対策課）

「積極的に育児に参加している父親の割合」については、市町村で実施している乳幼児健診のアンケートの方にお答えいただいたものを、指標の実績として計上させていただいております。乳幼児健診ではお母さんやお父さんのどちらもいらっしゃいますが、やはりお母さんがいらっしゃる人が多いので、お母さんの思っていることを記入していただいたものが多くなり、5つの回答に合わせて、「よくやっている」「大体やっている」などという形で、お答えいただいたものを、今回の割合に計上させていただいております。

○竹田委員

そうしますと、放課後児童クラブの方は全体として数は足りているけれども、例えば山王地区では120%だったり、他の地区では7〜8割しか希望者がいないというようなばらつきがある中で、待機児童がいる地区については調整を進めながら、そこをクリアしていくということでしょうか。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

待機児童の発生理由は、様々な理由がありますがけれども、主に全県的に多いのが、やはり4年生から6年生までの、高学年の児童が待機しているということが一番大きな理由になります。

○竹田委員

新しく作るということでしょうか。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

新しく作るとなりますと、市町村においてすぐに今日、明日にできるわけでもなく、ニーズに応じて施設の整備計画を立てながら、確保していく必要があります。多額のお金を投資して整備するところと、弾力的に受け入れを行うところと、バランスを見ながら行っている状況でありますので、そのはざまの中で待機が発生しているものでございます。

○竹田委員

積極的に育児をしているアンケートのことですけれども、例えば育児に関わっている時間が、1日1時間以上だとかあるいは週で10時間以上だとか何かそういう客観的な基準を定めてのアンケートなのでしょうか。

●事務局（保健・疾病対策課）

そのようなアンケートではなく、お母さんの感じたものという形で、「お父さんは育児に積極的に参加していますか」といった問いに対して、お母さんの答えとして「よくやっている」と答えていただいたものについて、こちらの割合に計上しております。客観的なもの、何時間以上育児に参加しているというものではなく、あくまでもお母さんが感じている形でというものになっております。

○竹田委員

そういう感覚的なものをまずは指標として経年で変遷を見ていくのは分かりますが、達成できたかどうかを判断するにあたって、基準が曖昧なのかなという感じはしていますので、ご検討いただけたらと思います。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

この指標につきましては前回もご指摘をいただいているところでありますけれども、客観的に判断できる指標というのが、他の調査におきますと、例えば5年に1回とか、毎年の結果を基に経年比較できるような適した指標がないものでありまして、まずはここで、他の計画にも活用している指標でもありますので変遷といいますか、そういった状況を見ていこうということで設定させていただきました。

○山名会長

今の意見に関連して、例えば、この男女共同参画に関するアンケートを新たに作り、それを指標にするということは考えることができるのでしょうか。例えば、少し話題がずれますが、前回ご指摘させていただいたように、推進の柱2「健康で明るく安全・安心な暮らしの実現」、施策の方向（1）「男女間におけるあらゆる暴力の根絶」で、基本施策①②③とありますが、具体的な指標としてはNO.15の「DV予防教育の実施校数」だけですよ。先ほど説明があったように、実際この指標を考えると難しいとの説明があった

わけですが、例えば相談件数を、ここの指標にしていのかどうかなどを検討した上で新たに調査を実施して、その経年変化を見るっていうことは考えられないものではないでしょうか。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

毎年行っている調査としましては、県で全体的にやっております県民意識調査というものがありますが、個別の調査につきましては、なかなか毎年できるというものはありません。この計画を策定する段階で、前年に実施した、男女共同参画に関する意識調査のような形で行っていくことはできるのですけれども、そうなりますとやはり5年に一回という形になってしまいますので、通常の施策を見ていくには、期間が空き過ぎかなという感覚を持っております。

○山名会長

その兼ね合いが難しいなと思うのですが、もちろん既にある指標を使うことによって経年変化が見れるっていうのはすごく大事なことである一方で、これだけ意識がかなり変わってきている中で、今までの既存の指標だけで成果を見ることができのかなというのを懸念してます。付け加えさせていただければ、男女間におけるあらゆる暴力の根絶の中で、例えば性犯罪とかハラスメントの根絶っていうのは、男女間の暴力を防止する施策っていうものもあると思いますが、そういうものの指標とかはやはり使えないのだろうかとか、推進の柱1「あらゆる分野における女性の活躍推進」の施策の方向(3)「地域社会における女性の参画拡大」の基本政策③「国際的視野を持った人材の育成」も指標がないのですが、指標がないものを基本施策にあげてどのように検討していくのかというようなところが、何かこうちぐはぐしている感じを受けてしまうんですけれども、そのあたりはどのようにお考えかを教えていただければと思います。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

性暴力やDV、ハラスメント、あとは国際的視野を持った人材についてですけれども、個別のそれぞれの施策の中でも、指標というものを持ち合わせていないのが現状であります。そうした中で、全体の計画の中に記載されているものが一つ一つすべて数値目標があるわけではない中で、代表的な指標として、今回こちらの35の項目というものを掲げさせていただきました。それ以外の部分については、定性的に評価していくものかと考えております。無理に指標を作るといっても現実的でないという感覚を持っております。

○竹下委員

まずこの計画ですけれども、このような形でまとめられたことに大変ご難儀をかけたのではないのかなと思います。改めて感謝申し上げます。こちらの方で見させていただきまして、新しい項目等も結構入ってきてるなと思って、いろいろと分類をし直した中で、

新しい指標なんかも目標にされたのだらうなと思っております。

今回、この計画の基本目標の中でSDGsを踏まえたジェンダー平等の視点によりというようなことがありまして、個人的にSDGsに私すごく関心を持っていたので、そのSDGsを踏まえたような視点を持って作られたものであるという、とらえ方がこれからの令和7年までの目標にあたっては、大変良い視点だなというように感じました。

最初に、指標NO.11「支援を通じて移住あるいは定住した女性の数」ということで、これまでの現状は算定がなく、これからの新しい目標ということで指標設定されると思うんですけども、この支援を通じてというところで、具体的に何か考えている施策や、この指標の数値のとり方について、お聞きできればと思います。

あともう1点は、NO.32「県職員の男性育児休業取得率」、NO.33「公立学校等の男性育児休業取得率」、NO.34「市町村職員の男性育児休業取得率」ということで、県職員あるいは市町村職員、公立学校の男性の育児休業の取得率という項目ですが、これはまずこの項目自体が行政分野ということなので行政の方たちの男性育休取得率というように計上していると思いますが、今後、民間分野についても数値を計上していくような取り組みは想定しているのか、またそれぞれの行政職員の男性育休取得率の目標値は、どこで設定するのかというところを教えていただきたいと思います。

#### ●事務局（次世代・女性活躍支援課）

指標のNO.11ですけれども、こちらが計画素案の本体のページでいきますと、11ページ③に記載しております。若年女性の回帰・定着の促進ということで、本県の人口減少の要因として社会減が挙げられるわけですが、こちらが若年女性の社会減、県外流出というのは非常に、男性に比べて数が多くございまして、その対策を行っていきたいということをポイントに置いております。将来的にはその若年女性が、県内定着することが将来の自然減の緩和に結びつくであろうということで、将来的にはその女性の活躍のみならず少子化対策にも結びつけていきたいという考えのもとに、施策を設けております。

また指標につきましては、事業として複数年の支援というものを設けまして、その支援を通じて県外から移住してきた方のほか、県内に在住している方でも県外に行こうと思ってるけれどもその支援を通じて結果的に県内に定着した方も対象にするなど、支援を通じて実際に移住あるいは定住した女性の数として、5年間で1,100人ということを考えております。こちらについては、移住の数はそんなに大きく設けることはできないだろうということで、階段方式で、令和3年から少しずつ増えていくようなイメージとして累計で1,100人ということを目指したいと考えているところです。

それから、NO.32,33,34の男性の育児休業取得率ですけれども、こちらの県職員、公立学校、市町村職員3種類ございまして、それぞれ例えば県であれば県が事業主として特定事業主行動計画というものを策定する必要がありますし、教育庁は教育庁で、市町村は市町村で、足元の職員を対象とした計画を立てていく必要がありますが、その計画の目標値

を転用して、第5次計画の目標として進めていくことにしております。また、民間への波及ということですが、こちらの一覧表のNO.7に「県内民間事業所における男性の育児休業取得率」があり、これまでも目標値を定めて取組を進めてきておりますが、まだまだ低率であり、二桁には届いていないことから行政分野と同じような形で目標を設定して、啓発をしてまいりたいと考えております。

○山名会長

今の数値に関連してですが、指標のNO.11「支援を通じて移住あるいは定住した女性の数」の1,100人という目標値は達成できるのでしょうか。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

非常に高い目標を設定してございますが、やはり、それくらいの気概をもって、女性の定着に取り組んでまいりたいと考えております。ただ、実態としてどこまでいけるかという不安はありますが、様々な事業である程度の予算をかけつつ、実施して参りたいと考えております。

○山名会長

それこそかなりターゲットを絞って、効果的に戦略を立てないと、なかなかクリアできない数値ではないかなと思いました。

同様に指標のNO.32,33,34も数値としてはそんなに高くはない目標値かもしれませんが、なかなか厳しいのではないのかなと思うところはあると思いますが、それは、妥当な数値として考えていらっしゃるということですか。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

妥当かどうかというところは難しいところではありますが、やはり目標ですので、ある程度高みを目指して、それぞれの特定事業主ということで、目標を立てて進めているところです。

○高橋委員

教育の中での男女共同参画っていうのはすごく大切な部分かと思います。指標のNO.23「男女共同参画意識を高める副読本の活用率」がありますが、実績値としては減少傾向にあります。教育の中では、発達段階に応じて小中高まで副読本があったと記憶しております。大人の世界も想像しながらの教育というものが充実していくことで、男女共同参画という意識も浸透していくのかなと思いますので、副読本の効果的な活用率アップに向けて、何か計画されていることがありましたら、教えていただきたいと思います。

またNO.12「積極的に育児をしている父親の割合」のところで、先ほど市町村のアンケ



ートの中でという話もありましたので、市町村へその回答項目を増やしていただけることができるのかとか、あとは主観的なアンケートっていうことになりますけれども、ママ側の他にも、パパ側からアンケートをとるなど、お互いの主観的な結果を出して比較できれば数値としては面白かったりとか、あとはその後の事業に反映していく上で、効果的な数値として活用していけるのかなと思いますので、市町村へのアンケート項目の追加を含め、こういったことを県として働きかけていく余地があるのかどうかをお伺いできればと思います。

#### ●事務局（次世代・女性活躍支援課）

一つ目のNO.23「男女共同参画意識を高める副読本の活用率」であります。これまで男女共同参画に限って、高校、中学校、小学校と、それぞれに向けた内容のものを作ってまいりました。その他、ライフプランを考えるものとしての副読本もあり、それは高校生向けに作ってききましたが、結局人生の中でどちらも両方考えていかなければいけない部分であるので、できれば統合して、高校、中学校、小学校向けと学齢に合わせて、教育庁と連携しながら、それぞれの子供たちに適切な内容で展開していきたいと考えているところです。それをまた学校の現場で活用していただきつつ、将来のライフプラン、あるいは秋田へのふるさとの愛着を持っていただいたりとか、男女共同参画とか全体的に考えていただけるような内容にしていきたいと考えております。

#### ●事務局（保健・疾病対策課）

アンケートの項目の追加の件ですけれども、こちらのアンケートは国が示している項目によるものになります。そのため、項目の追加ができるのかどうかというところは難しいものと考えております。しかし、市町村に別の形でアンケートの項目の追加をお願いすることはできるかもしれません。委員がおっしゃったように、夫婦でご参加くださる方たちもいるので、そのようなところを取っていただければいい指標ができるということもありますので、そちらの方は検討していきたいと思います。

#### ○松坂委員

第5次計画の素案については、先ほどお話があったように、国のいろいろな法律に基づいての素案作りということで、非常に新しい分野が多い内容となっており、我々も経験したことのないような状態が様々あります。今、世界でも、持続的な開発目標であるSDGsを盛り込みながら、教育分野でもそういう格好になってきております。この素案の中には、ジェンダー平等などがありますが、そういう面では、特別に今のSDGsを考えた状況ではないんですが、ほぼすべてに繋がるといいますか、そういう状態として見させてもらいました。

私は前回も言いましたが、女性活躍の大前提として、やっぱり女性が社会に進出する、

昔から共働きするということは、あまり私からすれば裕福な家庭でない家庭の姿であって、何とか私自身も、嫁さんに仕事をさせないで自分で子供や家庭を守っていくというのが、最初の教えだったのではないかなと感じております。今は逆にそれが、男は仕事、女は家庭というのが何となく具合悪いみたいな話になっておりますが、根本はそういうことではなくて、男が頑張るというものではなかったかなと思います。ただ、私らの考え方とですね、今の考え方はもう、それこそ 180 度違うような状況ではないかなと、そのように思います。

今回はこのコロナ禍で、何をやるにもまずこのコロナを何とか乗り越えた状態で進めなくてはいけないってのは、前提にあるわけですが、かと言って止まるわけにいけないので、この素案を生かすためには、私はこの状態で女性が活躍しようと思って動いた時や、何か壁にぶち当たったときに、どこかに相談をする窓口がある程度明確であれば、動きやすいのではないかなと思ってます。相談窓口も分野に応じて税務や福祉など縦割りになっていると感じる場面もあります。

指標の NO.20「母子家庭の年収 240 万円以上の世帯の割合」ということで、ここに経済的なものが一つ出てきますが、あとほとんどあんまり経済的なことが出ていないのですけども、根本はやっぱり、経済的な基盤ということで、男女とも適正な賃金が与えられて、それで結婚をして、人口もある程度抑えられるとか減少を抑えられるというような社会づくりが大切ではないかなと思います。

最後 1 点ですが、先ほども出ていましたが、小学校、中学校、高校での副読本の活用について、私もある校長先生と話したんですが、どのように使っていますかと聞いてみたところ校長先生からは、「そういった副読本を利用して授業することがいっぱいあります。」という要求が多いことを話していたほか、先生方の働き方改革の一環で時間に制約があるなど、大変な状況のようです。そういうのを一つ一つ潰しながら、良い状況にしていければなと思います。

#### ●事務局（次世代・女性活躍支援課）

相談窓口はなかなか難しいところはある、1 か所で全ての相談を解決できる場所がない状況ではありますが、男女共同参画でいいですよと、アトリオンにある中央男女共同参画センターでは来所だけでなく、電話の相談も受けておりますので、全県どこからでも電話相談は受けているところであります。また、DV などにおいては、福祉事務所において配偶者暴力相談センターというのを設置してありますし、労働分野は労働専門の相談機関ということで、それぞれの専門家がその事案に応じて対応する窓口を設置しているのが現状です。通常の男女共同参画であれば、男女共同参画センターの相談窓口と考えております。

また副読本ですけれども、確かに松坂委員のおっしゃる通り、先生たちがとにかく忙しくていろいろなことをやらなければいけないし、当然、授業の対応とか子供たちの対応が

メインである必要がありますが、あちこちからおそらく様々なリクエストがあったり、私どもも副読本の活用をお願いしておりますが、そういった似たような依頼もあるものと考えております。ただ、例えば1時間丸々時間を使ってやるというのはなかなか難しいと思うので、家庭科の中の一部分を使ってうまく活用していただけるように、お願いしているところですが、実際先生たちには本当にご難儀をかけていると思っております。

#### ○長谷部委員

松坂委員から相談窓口という、お話がありましたけれども、私も人権擁護委員をやっておりますので、結構セクハラ・パワハラ、男女共同参画とかDVなど、あらゆる相談が来ます。余談になりますが、気になったところとして、男女共同参画では女性がメインになっているという、何もかも女性を前面に出して、逆差別じゃないか、男性がちょっと小さくなってんじゃないかという話をされる方もおりました。それから、男性も女性も同じだということはよくわかるけれども、大きく言えば女系天皇は大昔はいたようですが今は男系に限られてる。それから女性は土俵には入れない。さらに言いますと、ご主人とか旦那様とか、亭主、あるいは奥さん、そういう類の言葉も差別用語じゃないかと。これはあくまで余談ですけども、こういう話を聞いたことがあります。

そこでお尋ねしたいのですけども、この計画について、広く県民の意見を聞くということで、9月に県議会において骨子案の説明をされて、今後パブリックコメントが予定されています。県議会ではどういう意見が議論されたものでしょうか。それからパブリックコメントですけども、現行の第4次計画策定時にどういった意見があったのか、もし差し支えがなかったら、教えていただきたいと思います。

#### ●事務局（次世代・女性活躍支援課）

この計画につきましては9月議会に、骨子案の方を提出して説明しております。その中では、若年女性、先ほどお話申し上げましたけれども、そういった社会減対策、将来の自然減緩和に向けてというあたりは、しっかりとやっていくようにというようにお話をいただきましたし、また、男性の育児参画ですとか、女性の管理職のあたりがやはり課題だというようにお話を頂戴しております。

第4次計画の時のパブリックコメントですけども、平成27年の12月に行いましたが、その時の意見の数としては、実数では電子メールで3通、その中で具体の意見の数としては9件ございました。その内容ですけども、女性の活躍の推進だとか、働きやすい職場づくりの土台となるのはイクボスであるので、継続した事業展開をお願いしたいとか、パパたちの学びの場の機会を増やして、パパママ教室の充実について市町村に対して働きかけを望んで欲しいとか、そういう意見がありました。

#### ○竹田委員

推進の柱3で、指標のNO.24「『学校では男子も女子も同じように活躍の場がある。』と考えている児童生徒の割合」、NO.25「『社会では男女とも平等に活躍できる場がたくさんある。』と考えている児童生徒の割合」の目標値について、NO.24はもともと数値が高いパーセンテージが出ているのですが、今回設定した目標値が92.9%とあります。これまでの実績を見ると、平成29年は93.6%、平成30年は93.6%、令和元年は少し下がって92.3%となっており、今回の目標値である92.9%というのは、この変遷を見ると、少し目標としては低い設定なのかなと感じております。他のところの数値を見ますと、先ほど山名会長からもあったように、ちょっと頑張った数字というか、高い目標値を考えていただいているように思ったのですが、今申し上げたNO.24とNO.25の目標値は、すでに前年とか前々年の数字から比べれば、むしろ低いところに置いてたりするのでその辺はどうしてなのかを教えていただけたらと思います。

それからもう1点、これは先ほどお聞きして、指標の置きようがないということかとは思いますが、男女間におけるあらゆる暴力の根絶のところ、やはりハラスメントに関して、女性はいろんな場、特に企業の中でセクシャルハラスメント等々で悩んでの方が少なくはなく、私もそういった相談機会もあります。DVとかの相談にしても、県警とか女性相談センターにおいて、相談件数を把握しているので、それがどう指標に使えるのかというのは、ちょっと難しいのかなと思ったりします。いずれにしろ、今回は難しい話だとは思いますが、そのままになるとまたこの先も、やはり今までの蓄積がないのでという話になってしまうかもしれないので、今後、何かそういった指標を作っていただけるように、ご検討を引き続きいただけたらと思いました。

●事務局（義務教育課）

指標のNO.24,25ですが、これは5月に行っている教育課程編成状況等調査の数値を利用しており、令和2年度の数値は、特に小学校の方で、90%程度になっております。この調査の数値について、浮き沈みが結構激しく、数値の設定は悩んだところであり、もちろん高い数値目標も検討したところです。なるべく目標数値に近づけたいと考えております。

○竹田委員

指標NO.25の方も24と同じように、令和2年の数字は少し低めに出ているということなのでしょうか。

●事務局（義務教育課）

委員おっしゃる通りNO.25の方は、少し数値的には低いと感じておりますので、検討したいと思います。

●事務局（次世代・女性活躍支援課）

ハラスメントについては、相談とかそういうのも含めて、県において調査した数値的なものはなく、現実的に国の方がメイン窓口となって対応しているところです。二重行政の解消ということで、県は普及啓発の方をメインに実施しているのが実情で、何か適切な指標がないかどうか探してはみたのですが、県が行っているものに対して、目標値を設定できるものがないのが現状です。

○山名会長

例えば企業においてハラスメントに関する対策とか、研修などが行われていると思います。ハラスメントに関して、何かそういう部分で指標を設定することは難しいのでしょうか。もちろん数値目標が全てではないとは思いますが、やはり力を入れているところは数値目標を設定している感じがあるので、誤ったメッセージにならない方がいいのかなと思います。

●事務局（雇用労働政策課）

ただいまのハラスメントに関してですけれども、基本的には労働局の労働基準監督署の方に相談が持ち込まれてますので、そこで相談件数といった数値データがあると思います。県として数値化を把握する手段として、毎年、県内企業 1,600 社ほどに対して調査を実施している労働条件等実態調査というものがありますので、ハラスメントに関して調査項目の追加が可能かどうかについて、検討させていただきたいと思っております。この調査は主に給与の問題とか、役職者の割合がどれくらいかなどの労働条件等を把握する調査であるものの、テレワークなど最近広がってきている新しい働き方の導入状況を追加するなど、調査項目も増えてきております。よって、さらに 1 項目追加できるかどうか検討させていただきたいと思います。

○高橋委員

先ほど相談者としての女性っていうのがありましたけれども、相談者としての男性というのもやはり意識していかなければいけないかなと思っております。ハラスメントはもちろんですし、DVでもそうですが、例えば子育てをしているパパたちにとっても、参画し始めることで悩みが出てきたり、パタハラが職場でおきたりしています。社会の中で女性が相談できる体制というのは整ってきているかと思いますが、男性も相談できる主体者の 1 人だよというメッセージを発信していくことができれば、男性にも温かさを持った体制が整っていくと思いますので、その視点もぜひセットで推進していただければと思います。

○山名会長

それでは、他に質問等がないようですので、事務局は本日の議論を踏まえて、計画の策

定作業を進めていただければと思います。本日、言い忘れたこととか、今後お気づきのことがございましたら、来週の11月25日水曜日までに事務局にお知らせください。

それでは以上をもちまして議事が終了しました。皆様、ありがとうございました。進行を事務局に戻したいと思います。

#### ●事務局

委員の皆様本日はお忙しい中ご参加いただきましてありがとうございました。また、多方面にわたるご意見を頂戴しまして、ありがとうございます。

この男女共同参画推進計画の次期計画は第5次となりますけれども、今の時代を反映させて、できるだけ男性も女性も生き生きと暮らしていけるような計画にし、また、計画策定するだけでなくそれぞれの施策においても展開できるように、各部局連携して取り組んで参りますので、よろしくお願いいたします。

本日いただいた意見を基に、計画の素案を修正した上で、12月にパブリックコメントを実施いたします。パブリックコメントにかける案の内容につきましては、会長の方に一任いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。パブリックコメントで県民の皆様から提出されました意見を踏まえながら、計画の最終案を作成しまして、来年の1月に、男女共同参画審議会を開催しまして、最終意見をいただきたいと思います。この男女共同参画審議会の1月の日程につきましては、後日、委員の皆様にご都合をお伺いしますので、よろしくお願いいたします。

それではこれをもちまして、令和2年度第3回秋田県男女共同参画審議会を終了いたします。

本日は誠にありがとうございました。